

# 令和元年度(平成 31 年度) 白石町立有明中学校 学校評価計画

<b>1 学校教育目標</b>  心身ともに健康で、 主体的に学び行動し、 未来を拓く生徒の育成	<b>2 本年度の重点方針</b> (1) 「主体的・対話的で深い学びの実現」を目指した指導方法の工夫と実践 (2) 自ら考え正しく判断し、他を思いやる行動ができる生徒の育成 (3) 特別支援教育推進体制の構築 (4) 部活動マネジメント力の向上 (5) 学校・家庭・地域・小学校とのつながりを大切にした「地域とともにある学校づくり」
--	--



<b>3 目標・評価</b>				
<b>(1) 「主体的・対話的で深い学びの実現」を目指した指導方法の工夫と実践</b>				
領域	評価項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力向上	個に応じた指導や対話活動を重視し、わかる授業に向けた指導方法の工夫及び改善	◇授業で発表したり、話し合いに積極的に参加したりする生徒の割合を80%以上にする。 ◇家庭学習に継続的に取り組んでいる生徒の割合を80%以上にする。 ◇全教科・項目について学習状況調査等で県平均を上回る。	・道徳を含めて対話活動をできるだけ多く取り入れ、思考力の向上を図る。 ・他者に学んだことを教える活動を取り入れる。 ・定期的に宿題を出し、生徒の家庭学習を習慣化させる。 ・「サクセスノート」を有効に活用し、授業と家庭学習との関連を図り、より効果的な取組みができるように継続的に指導する。
		<b>(2) 自ら考え正しく判断し、他を思いやる行動ができる生徒の育成</b>		
教育活動	●志を高める教育	生徒が主体的に「自らの生き方」を考え、進路を決定できるような指導の確立	◇進路指導やキャリア教育を充実させることによって、将来の夢や希望をもっている生徒の割合を80%以上にする。	・職場体験などのキャリア教育を充実させることによって、生徒が主体的に「自らの生き方」を考え進路決定できるようにする。
		生徒の自己肯定感を高める指導の工夫	◇体育大会などの学校行事に積極的に参加したと答える生徒の割合を80%以上にする。 ◇「有明中に通ってよかった」と答える生徒の割合を80%以上にする。	・生徒中心の実行委員会を設置し、生徒の自主的な運営が促進されるよう支援を行う。 ・生徒による企画運営の機会を多く与える。 ・運営自体をできるだけ生徒に任せられることができるよう環境を整える。
	●心の教育	「特別の教科 道徳」(道徳科)の研究推進	◇道徳科の研究を深め、その成果を研究発表会において公開する。	・道徳教育を校内研究のテーマとして全職員で取り組み、その指導及び評価についての能力の向上を図る。 ・各学年が全職員で授業構想に積極的に関わりながら授業研究会を実施することで、道徳の指導力の向上を図る。
		豊かな人間関係を構築するためのコミュニケーションスキルの向上を図る。	◇トーク集会を学校行事に計画的に位置付け、自らを表現する生徒の育成に全校体制で取り組む。	・グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニングを取り入れ、支持的風土のある学級づくり(集団作り)を行う。
	●いじめの問題への対応	いじめの未然防止、早期発見・早期対応等の体制づくり	◇「学校に行くのは楽しいと思う」という問いに「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える生徒の割合80%以上をめざす。 ◇いじめに対する早期発見・早期対応により重大事案になることを0に防ぐ。	・「学校生活アンケート」を定期的に行い、その結果内容を生徒指導協議会において全職員で共有し対処していくことで早期解決をめざす。 ・授業規律や生活ルールを守ることを徹底させ、生徒の落ち着きのある学校生活をめざす。 ・QUテストの実施により、経験則のみではなく客観的な視点において個々の状況を把握し、いじめの未然防止、早期発見に努める。 ・学級や学年において支持的風土を醸成、いじめの起こりにくい環境づくりに努める。
		人権・同和教育の推進と充実	◇QUによる学校生活満足群の割合を向上させる。 ◇人権をテーマにした学活や道徳の授業を全クラス1回以上行う。	・QUにより学級集団や生徒の状態を把握し適切な支援を行う。 ・全生徒が人権作文・標語に取り組むよう指導する。 ・生徒支援教員の効果的な運用について研究し実践する。
<b>(3) 特別支援教育推進体制の構築</b>				
教育活動	○生徒の個に応じた支援、ニーズに対応した支援の推進	配慮を要する生徒への支援体制の充実	◇個別指導の時間数を生徒一人に対して平均200時間以上になるよう時間割を編成する。	・専門家による巡回相談を積極的に活用し、本校支援体制に対する助言を積極的に受け入れ、支援をよりよく改善していく。 ・支援に適した環境を可能な限り整える。 ・アンケートや教育相談による情報の収集および保護者等への情報の提供を行う。
		生徒理解のための研修・協議会の計画的な実施	◇特別支援教育関係、またはそれに関連する内容の研修会や協議会、連絡会を年5回以上開催する。	・生徒指導協議会、教育相談部会等の開催を年間計画や週時程に位置付けて実施する。
<b>(4) 部活動マネジメント力の向上</b>				
学校運営	○部活動の充実	生徒が主体的に活動できる計画的・効果的な部活動の実践	◇部活動が充実していると答える生徒の割合80%以上をめざす。	・長期休業中に生徒を主体とした部活動の在り方やコーチング技術の向上を図る職員研修を実施する。
	●健康・体づくり	生徒の自己管理能力の増進	◇朝食の喫食率95%をめざす。 ◇生徒の自力登校90%以上をめざす。	・早寝、早起き、朝ごはんの充実を呼びかける。 ・各種集会等を通して生徒だけでなく、保護者に対しても自力登校の必要性について説き、その啓発を図る。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	「働き方改革」に伴う教職員の部活動の在り方改革	◇部活動での指導の在り方や指導体制を見直すとともに定期的な休養日を設定するなどして、教職員が部活動の在り方について研究する。	・毎月の部活動休養日(第3日曜)及び定時退勤日(毎週水曜日)の徹底を図る。 ・休養を含めた上での計画的・効果的な部活動経営の在り方を研究する。
<b>(5) 学校・家庭・地域・小学校とのつながりを大切にした「地域とともにある学校づくり」</b>				
学校運営	○地域と連携した特色ある学校づくり	コミュニティ・スクールとしての地域に根差した学校づくりの推進	◇地域人材を活用した授業や行事を年5回以上実施する。 ◇生徒による地域貢献活動を年間3回以上実施する。 ◇情報公開を推進し、学校HPの更新回数を100回以上行う。	・生徒会活動を中心に、地域の活動に積極的に参加したり、校外活動やボランティア活動に取り組んだりして地域に貢献する。 ・学校通信「Heartful」や学校パンフレットを有明中校区内に配布したり、体育大会や文化発表会などの行事に地域の人々を招待したりしながら、地域との交流に努める。
	○小中連携の推進	小中学校の職員やの児童・生徒の相互交流活動の推進充実	◇小中学校の交流回数年10回以上をめざす。	・勤務規律や人権・同和教育、教育相談や特別支援教育などに関して合同の職員研修会を実施して、小中相互の教職員の連携を図る。 ・体育大会や運動会、文化発表会や学習発表会等、小中の学校行事等で児童・生徒の交流を推進する。 ・新入生対象の学校説明会、中1生徒が出身小学校を訪問して中学校についての情報提供を行う「ようこそ先輩」などを実施して、小中の接続をスムーズにする。 ・中学校教職員による小学校での出前授業に積極的に取り組む。

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目